

1. 職名・氏名 教授・石原一成2. 学位 学位 博士、専門分野 学術、授与機関 大阪市立大学、授与年月 2001年9月

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 体育実技Ⅰ（1単位 毎年開講） 1年生 （2017年度～2019年度）
② 内容・ねらい 集団スポーツの実践を通して、身体活動の健康的意義を理解する。また、生涯にわたって運動・スポーツに親しんでいくことのできる態度・能力や身体機能（体力）の向上を目指し、生涯スポーツ（スポーツの生活化）に向けてのきっかけを得ることを目的としている。さらに、受講者間の人間関係の向上やコミュニケーション・スキルの獲得も本授業の重要な目標としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 体育実技Ⅰでは、協調、協力、他者への配慮など、集団スポーツに内包される構成要素に着目し、その実技力を高めることに加えて、集団における行動能力を高めることをテーマに展開している。 教員がウォーミングアップや練習方法を提示する学習活動から、学生主体の学習活動に発展させていくよう配慮している。具体的にはチームごとに設定したその日のリーダーを中心にウォーミングアップ、チーム練習、グループワーク等の学習活動を行い、リーダーシップ、フォロワーシップ、サポーターシップについて考え、実践する機会を提供している。 毎回、受講生は学習活動の記録（自己評価、次週の課題、戦術、学び、感想など）を行い、教員がコメント・アドバイスを記入しフィードバックを行い、双方向授業の基礎づくりを行っている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 体育実技Ⅱ（1単位 毎年開講） 1年生 （2017年度～2019年度）
② 内容・ねらい 個人スポーツの実践を通して、身体活動の健康的意義を理解する。また、生涯にわたって運動・スポーツに親しんでいくことのできる態度・能力や身体機能（体力）の向上を目指し、生涯スポーツ（スポーツの生活化）に向けてのきっかけを得ることを目的としている。さらに、受講者間の人間関係の向上やコミュニケーション・スキルの獲得も本授業の重要な目標としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 体育実技Ⅱでは、小人数で気軽に実施でき、生涯スポーツとしても実施可能性の高い個人スポーツという構成要素に着目し、技術的な導入・応用・発展をテーマに展開している。 教員がウォーミングアップや練習方法を提示する学習活動から、学生主体の学習活動に発展させていくよう配慮している。具体的にはチームごとに設定したその日のリーダーを中心にウォーミングアップ、チーム練習、グループワーク等の学習活動を行い、リーダーシップ、フォロワーシップ、サポーターシップについて考え、実践する機会を提供している。 毎回、受講生は学習活動の記録（自己評価、次週の課題、戦術、学び、感想など）を行い、教員がコメント・アドバイスを記入しフィードバックを行い、双方向授業の基礎づくりを行っている。

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 体育実技Ⅲ (1単位 毎年開講) 1年生 (2017年度～2019年度)</p>
<p>② 内容・ねらい シーズンスポーツの実践を通して、身体活動の健康的意義を理解する。また、生涯にわたって運動・スポーツに親しんでいくことのできる態度・能力や身体機能(体力)の向上を目指し、生涯スポーツ(スポーツの生活化)に向けてのきっかけを得ることを目的としている。さらに、受講者間の人間関係の向上やコミュニケーション・スキルの獲得も本授業の重要な目標としている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 集中講義で宿泊を伴う体育実技Ⅲではスクーバダイビングやスキーの基礎的な知識や技術を学習し、生涯にわたり年齢・体力に応じたスポーツの楽しみ方を養うことに加えて、地域環境の再認識や環境問題への意識付けなどを目指した自然体験型学習や交流プログラムとなるように配慮している。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 スポーツ科学 (2単位 毎年開講) 1, 2, 3年生 (2017年度～2019年度)</p>
<p>② 内容・ねらい 個人および社会における健康問題を認識するとともに、生涯にわたって運動・スポーツに親しむために必要な科学的知識を学習する。また、生涯スポーツ(スポーツの生活化)の必要性と具体的方策などについても理論的に学習する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 運動・スポーツの健康的意義、生涯を通して運動・スポーツとどのように付き合うかということスポーツ科学の最新動向・理論を踏まえ講義している。 視聴覚教材を多く使い、スポーツ科学の理論と実際の場面がイメージできるように配慮している。パワーポイントを用いた講義に対応した配布資料(資料、穴埋め部分、書き込み部分)を作成している。また、配布資料の冒頭に目的、キーワードを提示し、学生の学習活動がスムーズに進むよう配慮している。さらに、体育実技との関連をできる限り図り、講義が実践につながるよう配慮している。 小テストを毎回実施し、学習の理解度を確認しながら授業を進めている。小テストにコメント等を記載し、返却することで、双方向コミュニケーションの一助となるよう配慮している。また、発言やスポーツに関する書籍の読書感想文提出に対してインセンティブを与え、授業活動に積極的に参加することを重視している。学生が発言しやすいように、ワイヤレスプレゼンテーションツールを使用し、教員と受講生との距離が近くなるようにしている。 日本ハンドボールリーグ所属選手である非常勤講師がトレーニングやコーチングの概要等を解説する機会を設定し、理論と実践の融合を目指している。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 運動処方論 (2単位 毎年開講) 2年生 (2017年度～2019年度)</p>
<p>② 内容・ねらい 健康・体力の維持増進、競技力向上のための安全で効果的な運動プログラム作成の基礎について学習する。また、体力測定を行い、自らの体力を診断し、各自の目的に応じた運動プログラムを作成する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 健康・体力づくりやトレーニングの方法、運動処方を安全で効果的に行える基礎能力を身につけることができるように、講義だけでなく体力測定や栄養評価などの実習も取り入れ、実践的な学習活動を行っている。 視聴覚教材を多く使い、運動処方の理論と実際の場面がイメージできるように配慮している。パワーポイントを用いた講義に対応した配布資料(資料、穴埋め部分、書き込み部分)を作成している。また、配布資料の冒頭に目的、キーワードを提示し、学生の学習活動がスムーズに</p>

進むよう配慮している。さらに、体育実技との関連をできる限り図り、講義が実践につながるよう配慮している。

ミニッツペーパーを毎回記入してもらい、学習の理解度を確認しながら授業を進めている。

プレゼンテーションとディスカッションが円滑・活発に進み、学生が学習の幅を広げられるように参加者に役割を設定した。また、プレゼンテーションや配布資料を受講生で合評している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

導入ゼミ (1 単位 毎年開講) 1 年生 (2017 年度～2019 年度)

② 内容・ねらい

「健康を科学する」をテーマに、自分の課題を定める、必要な情報を集める、情報を読み、理解し、考える、そしてその結果を表現し、効果的にひとに伝えるという「実践」の中で、大学での学習に必要な最小限の技術を習得する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

「健康を科学する」に関するレポートの作成を通して、学生が自主的学習態度、大学での学習・研究に必要な情報収集能力や自己表現能力、文書作成能力等の基本的技術を身につけることを徹底している。

プレゼンテーションとディスカッションが円滑・活発に進み、学生が学習の幅を広げられるように参加者に役割を設定している。また、プレゼンテーションや配布資料を受講生で合評している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

教養ゼミ (1 単位 毎年開講) 1 年生 (2017 年度～2019 年度)

② 内容・ねらい

「健康・スポーツ科学研究法入門」をテーマに、課題探求能力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力のより実践的な向上を目指す。提示するテーマについて、学生自ら事前の情報収集、論旨・論点等の整理を行った上で、当該テーマに関する発表や討論・質疑を行うとともに、初歩的な調査活動を行う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

「導入ゼミ」で習得した自主的学習態度、情報収集能力や自己表現能力、文書作成能力等をさらに発展させるように配慮している。

プレゼンテーションとディスカッションが円滑・活発に進み、学生が学習の幅を広げられるように参加者に役割を設定している。また、プレゼンテーションや配布資料を受講生で合評している。

(2) 非常勤講師担当科目

① 担当科目名 (単位数) 開講学校名

② 内容・ねらい

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

④ 本学における業務との関連性

(3) その他の教育活動

① 課外活動顧問

男女剣道部顧問 (2017 年度～2019 年度)

② クラブ代表者会議運営支援 (2017 年度～2019 年度)

クラブ代表者会議の運営を支援し、必要に応じて相談に乗っている。また、学生および外部利用者を対象に、土・日・祝日および平日空き時間の体育施設の利用・貸出の調整の支援を行

っている。申請書式のダウンロード，利用状況の公開などを教員個人のウェブサイト (<http://fpu-sports.wix.com/facilities>) をとおして行うことで学生の課外活動を支援している。

③ 体育館施設の管理・清掃，学生への使い方指導・助言等（2017年度～2019年度）
随時，体育館施設の管理・清掃，学生への使い方指導・助言等を行っている。

④ 北信越大学バスケットボール連盟 理事（2017年度～2019年度）
北信越大学バスケットボール連盟の理事を務め，北信越の大学バスケットボール活動の支援を行っている。

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表

① 論文

「Exercise, oxidants, and antioxidants change the shape of the bell-shaped hormesis curve」Z. Radak, **K. Ishihara**, E. Tekus, C. Varga, A. Posa, L. Balogh, I. Boldogh and E. Koltai, Redox Biol., 12, 285-290, 2017.

② 著書

『三世代近居の健康長寿学—福井・北陸・日本・世界—』編著，晃洋書房，2019年3月。
『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法—ここが知りたかった測定と評価のコツ—』共著，杏林書院，2019年10月。

③ 学会報告等

「The situation of sports and physical education in Hungary」The 29th International Sport Science Congress 2017, **K. Ishihara**, 2017年6月

「福井県の中学校体力全国上位を支える要因の検討～「目標をもって取り組んでいる学校行事」に着目して～」日本発育発達学会第16回大会，山田孝禎，出村友寛，宗倉 啓，野田政弘，山次俊介，**石原一成**，野口雄慶，杉浦宏季，2018年3月

「福井県の小学校体力全国上位を支える要因の検討～「目標をもって取り組んでいる学校行事」に着目して～」日本発育発達学会第16回大会，出村友寛，山田孝禎，宗倉 啓，野田政弘，山次俊介，**石原一成**，野口雄慶，杉浦宏季，2018年3月

「番号ステップテストは男性高齢者の経度認知障害を判別するか？」日本体育測定評価学会第17回大会，山次俊介，**石原一成**，内田 雄，2018年3月。

「Five-year changes in physical and cognitive functions of older people in care prevention service」第66回日本教育医学会大会，S. Yamaji, **K. Ishihara**, Y. Uchida, D. Izumiyama and S. Shimada, 2018年8月。

「歩行と音刺激反応を組み合わせた Multi-task test と易転倒性、MoCA 得点との関係」日本体育学会第69回大会，山次俊介，佐藤 進，**石原一成**，佐藤敏郎，2018年8月。

「地域在住高齢者の転倒リスクと軽度認知障害を捉える身体機能テストの検証」日本体育測定評価学会第18回大会，山次俊介，**石原一成**，佐藤敏郎，2019年3月。

④ その他の公表実績

(2) 学会活動等

学会でのコメンテーター，司会活動

第73回日本体力医学会大会座長（2018年度）

第67回日本教育医学会座長（2019年度）

学会での役職など

日本体育測定評価学会理事（2017年度～2019年度）

日本教育医学会理事（2017年度～2018年度）

日本体力医学会評議員（2017年度～2019年度）

学会誌の査読など

日本教育医学会機関誌「教育医学」査読（2017年度，2019年度）

日本体育測定評価学会機関誌「体育測定評価研究」査読（2018年度）

吉備国際大学，九州保健福祉大学社会福祉学研究科学術論文誌「最新社会福祉学研究」査読（2018

年度) 日本体力医学会機関誌「体力科学」査読 (2019 年度)
学会・分科会の開催運営 第 65 回日本教育医学会大会実行委員 (2017 年度) 第 66 回日本教育医学会大会実行委員 (2018 年度) 第 73 回日本体力医学会大会実行委員 (2018 年度) 第 67 回日本教育医学会大会実行委員 (2019 年度) 日本体育測定評価学会第 19 回大会実行委員 (2019 年度)
(3) 研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4) 外部資金・競争的資金獲得実績
(5) 特許出願

5. 地域・社会貢献

(1) 学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井県「元気な福井の健康づくり応援計画」(福井県健康増進計画)改訂ワーキンググループ委員 (2017 年度) 「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会実行委員会 全国障害者スポーツ大会検討会副委員長 (2017 年度～2018 年度) ふくい健康の森(温泉・スポーツ施設)指定管理者選定委員会委員長 (2018 年度) 福井県スポーツ推進審議会副会長 (2017 年度～2019 年度) ふくい健康の森(温泉・スポーツ施設)外部評価委員会委員 (2019 年度)
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加 特定非営利活動法人あすてらすヘルスプロモーション監事 (2017 年度～2019 年度) 小郡市総合保健福祉センター(福岡県小郡市)において市民を対象とした各種健康づくり事業を行っている。
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 公益社団法人大阪府柔道整復師会医接連携室メンバー (2017 年度～2019 年度)
⑥ その他
(2) 大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 平成 29 年度前期公開講座 ケンダイ・ワールド・ツアー～県大教員が案内する世界の国々～ (2017 年 6 月) FBC ラジオキャンパス ようこそ 県大研究室 三世代近居の健康長寿学 (2019 年 5 月) 令和元年度前期特別企画講座 地域の特性から見る健康長寿学 (2019 年 6 月)
② 社会人・高校生向けの講座

③ その他

(3) その他（個人の資格で参加している社会活動等）

福井県鯖江市の在宅高齢者を対象に身体機能（体力）測定を実施し，測定結果の説明やそれに基づいたアドバイスを行っている。（2017年度～2019年度）

6. 大学の管理・運営

(1) 役職（副学長、部局長、学科長）

(2) 委員会・チーム活動

教育研究委員会委員（2017年4月～2019年3月）
ハラスメント等人権問題に関する委員会相談員（2017年4月～2020年3月）
学術教養センター教務カリキュラム委員会委員（2017年4月～2019年3月）
学術教養センター教務カリキュラム委員会委員長（2019年4月～2020年3月）
学術教養センター教員評価委員会（2019年4月～2020年3月）

(3) 学内行事への参加

(4) その他、自発的活動など